

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	<b>会 報 第 259 号</b>	2023年2月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

### 1. 活動報告（事務局 記）

- 2月5日（日）天気も良く、会員16名で、湿地帯のエコアップ、水車の給水パイプの位置調整、竹林の切った竹の片づけ、水路上流の草刈り、刈った草の焼却の作業を行いました。途中の休憩時に、今後の運営について話し合いをしました。
- 2月8日・9日 原田会長と前田会員で8日に、原田会長と松本会員と非会員の長岡さんで9日に、竹林の片づけを行いました。
- 2月19日（日）天気は時々小雨の中で、会員12名で水車下流の小川の土あげ、草原ゾーンのイノシシによる荒起し部に真砂土で修正、湿地帯そばの観察路の水漏れ部分をパイプとU字溝で流水路を作る、湿地帯のエコアップの作業を行いました。作業前に今後の運営について話し合いました。

### 2. 今後の予定（事務局 記） ◎行 事

- 3月5日（日）維持活動（修復作業）
- 3月19日（日）維持活動（エコアップ、修復作業）、会計監査

### 3. 来訪者の声（原田代弁 Part-2）

先月号で12月14日と誤り表示しましたが12月24日でした。一度ビオトープに戻ってきて以後姿を隠していましたが、ひょんなことから？厚東の持世寺の「持世寺里山の会」に移動していました。周囲の環境がよく似ており居座ろうかと思いましたが、野生の猿が出没するとの情報が流れ（害獣駆除対象）駆除されそうな危険を感じていました。地域の心温まる歓迎を受け2週間ばかり皆様の前で愛嬌を振りまいていましたが、このことを以前かわいがっていただいていた「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」の一部会員に連れ戻していただきました。持世寺の皆様とお別れは非常に残念でしたがこちら元の古巣の方が安全であろうと思っています。又お会いしましたらよろしくかわいがってください。

### 4. 会員の声 「コウノトリが訪問」 （原田満洲夫 記）

今年も渡り鳥のカモ類が姿を見せませんでした。児童が登校する朝の時間木田橋から永山酒造前と国道二号線二俣瀬橋との間20羽～30羽の青首マガモ・カルガモが3月初めまで賑わしてきていたのですがこの2年間全く姿を見せずさみしい限りです。

変わって先日10日と11日の2日間宇部乗馬クラブ前の田んぼにコウノトリが少子化の二俣瀬に赤ちゃんを連れて？飛んできてくれました。一過性かもしれませんがこの地に長く住んでおられる97歳の嘉藤さんは生まれて初めてであることを言われていました。

2月15日の宇部日報にも掲載され一時的にも過疎のこの地の二俣瀬を賑わしてくれました。この地にしょっちゅう来てくれて子供がたくさん増えることを願うものです。

## 5. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

### (84) ヒメギス *Eobiana engelhardti subtropica* キリギリス科

やや大型のキリギリス、体色は黒く背中が灰褐色で、まれに緑色もいるようです。6月～10月まで見られますが、やや湿った草むらに隠れており、なかなか姿を見せてくれません。休耕田などでは湿気も多く草が茂っていますので、見られる機会も多いようです。

鳴き声はシリリリリ・・・と鳴くようですが、よくわかりませんし、みかけることも少ないのです。最初筆者はビオトープ周囲の休耕地でたまたま見かけました、幸い何とか撮影し名前を調べたところ「ヒメギス」と分かりました。いろんなキリギリスがいるものですね。その後、岩国市、周南市、山口市、萩市、美祢市、長門市、山陽小野田市などで見かけるようになり、撮影を進めています。その中でやっと背中が緑色の個体を萩市で、黄色い個体を山口市で撮影できました。



宇部市車地産♂



山陽小野田市産♂



岩国市羅漢高原産♀



山口市秋穂東産♀ (背中が黄色)



萩市高佐下産♂ (背中が緑色)

## 6. 会よりの連絡事項

1) 今後のつくる会は、R6年度以降の事務局体制について継続審議していく必要があります。もし希望者を募り、新たな事務局を迎えることになるなら、古参は求められなければ口出しをしない方が良いのではないかといった意見もありますが、引継ぎも必要です。

2) 今後のビオトープの管理運営について、令和6年4月2日の総会で議題に載せるためには、原案をそれ以前の活動日の会合で十分話し合っておく必要があります。管理団体の交代といった重要な意思決定につながる場合も考えられますので、会員の皆様には今までにも増して積極的に活動日の会合に参加くださるようお願いいたします。

## 7. 編集後記 (若林 正治 記)

正月にコロナウイルスに感染し、軽症で元気だが家族とは会えず、外出も出来ず。大変面白くないスタートになった。さて里山ビオトープ二俣瀬だが、活動当初は大変面白く、休日には息子達と昆虫や魚を追い駆けたものだった。それも気付けば20年が過ぎ、今は活動の多さと維持管理が大変に感じている。発足当時、ビオトープや田んぼの学校等、色々自然と触合う活動が盛んだった様に思える。ただの流行だったのか？戦争も終わらないし、なかなか難しい世の中だ。